

国立大学法人神戸大学の平成22年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

神戸大学は、「真摯・自由・協同」の精神を発揮し、人類社会に貢献するため、普遍的価値を有する「知」を創造するとともに、人間性豊かな指導的人材を養成することを使命としている。第2期中期目標期間においては、平成18年度に策定した「神戸大学ビジョン 2015」に掲げる世界トップクラスの教育研究機関となること、また、卓越した社会貢献と大学経営を行うことを全構成員が共有し、その実現を目指すことを基本的な目標として定めている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、「大学教育推進機構」の改組による全学における教育実施体制と教育評価体制の強化、大学のフラッグシッププロジェクトとしての「神戸大学統合研究拠点」の開設準備、「神戸大学ブリュッセルオフィス」の設置など、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

業務運営については、「神戸大学ビジョン 2015」の重点施策を進める「ビジョン推進経費」を設け、行動計画を達成するために重点的な予算配分を行っているとともに、男女共同参画の推進等に取り組んでいる。

一方、第1期中期目標期間に実施した業務改善の実施状況を点検することについて、点検の実施が不十分であったことから、着実な取組が求められる。

自己点検・評価については、学長の下に置く企画室と経営評価室を統合し企画評価室に改組することによって、PDCAサイクルの実質化と充実に向けて取り組んでいる。

その他業務運営については、戦略的なスペースマネジメントによる施設の有効活用や環境保全を目的とした環境マネジメント等に取り組んでいる。

教育研究の質の向上については、学位授与の基本となる全学のディプロマ・ポリシーとして「神戸大学学位授与に関する方針」を策定するとともに、学生の修学環境充実のための教務システムの更新、若手研究者に対して海外の研究機関において研究する機会を提供する「神戸大学若手教員長期海外派遣制度」等に取り組んでいる。また、兵庫県と包括連携協定を締結し、社会貢献活動を行っている。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成22年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 「神戸大学ビジョン 2015」の重点施策を進める「ビジョン推進経費」を設け、行動計画を達成するために重点的な予算配分を行っている。
- 国立大学法人を取り巻く状況の変化等を踏まえ、「入学定員の見直しに係る神戸大学

としての対応方針」を定め、組織の見直しについて検討を行っている。

- 職員及び学生の育児と就労・就学の両立を支援するため、楠地区に大学が管理運営を行う保育所の設置を決定するとともに、保育支援サービスとして財団法人と契約を締結し、財団法人が指定するベビーシッター業者を利用した場合に料金の割引を適用する「ベビーシッター育児支援事業」を開始している。
- 女性研究者の採用割合が低い分野における女性研究者の養成を加速させるため、「女性研究者養成システム改革加速プログラム」により、3名の女性教員を採用している。
- 経営協議会における指摘に対して、国際交流の充実や学生の国際性涵養のための事業計画を策定するなど、意見を大学運営に反映させている。

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 「第 1 期中期目標期間に実施した業務改善の実施状況を点検する」（実績報告書 13 頁・年度計画【17-1-1】）について、点検が不十分であることから、年度計画を十分には実施していないものと認められる。

【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。

（理由） 年度計画の記載 15 事項のうち 14 事項が「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分実施している」と認められるが、1 事項について「年度計画を十分には実施していない」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（2）財務内容の改善に関する目標

- ①資源配分、②外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、
- ③経費の抑制、④資産の運用管理の改善

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 予算の効率的な執行の観点から、各部局の基盤的経費の 1%を限度（上限 200 万円）として、予算の繰越制度を導入するとともに、平成 19 年度に創設した「学内資金の預かり・貸付制度」との併用により、計画的な学内資金の繰越と貸付制度の活用による部局重点事業の推進を図っている。
- 第 2 期中期目標期間の重点事業として、早期実施を決定した国維寮整備事業及び連携創造本部移転事業について、機動的な予算執行が可能となるよう、運営費交付金等の収益化基準として業務達成基準を適用している。
- 外部資金比率が 7.4%（対前年度比 0.5%減）となっていることから、外部資金獲得に向けさらなる取組が期待される。
- 中期計画における総人件費改革を踏まえた人件費削減目標の達成に向けて、着実に人件費削減が行われている。今後とも、中期目標・中期計画の達成に向け、教育研究

の質の確保に配慮しつつ、人件費削減の取組を行うことが期待される。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。

(理由) 年度計画の記載 11 事項すべてが「年度計画を十分実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学内共同利用施設「都市安全研究センター」において、自己点検・評価とともに外部評価を実施し、外部評価委員からの意見を踏まえ、改組計画の検討を進めている。
- 第 1 期中期目標期間に実施した全学共通項目による授業評価アンケート、卒業・修了時アンケートについて、教育の PDCA サイクルを確実にするために、新設した「全学評価・FD 委員会」で審議することを決定し、教育評価の自己点検・評価体制を強化している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。

(理由) 年度計画の記載 3 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守、④広報活動の充実)

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- スペースマネジメントにより、システム情報学研究科の創設に必要となるスペースについて、既存校舎（旧情報知能工学科校舎）の改修並びに総合研究棟（生命・分子系）の新築により約 4,300 m²のスペースを確保し、新たな教育研究に資するスペースを再配分している。
- 「神戸大学ビジョン 2015」の達成に向けて、日本人学生・外国人留学生・外国人研究者が日常的に交流できる住環境の整備を目的として、学生担当理事を座長とする「学生寮・研究者宿泊施設計画プロジェクト」を設置し、学生寮整備基本方針を策定している。
- 病院地区の無停電電源装置機器の点検業務及び医療ガス設備点検業務など、20 の業務について役務契約の一元化を図り、コストの削減を行っている。

- 環境マネジメントの一環として、消費電力の見える化装置を自然科学系図書館に設置し、運用改善により約10%の節電を行っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。

(理由) 年度計画の記載17事項すべてが「年度計画を十分実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究の質の向上の状況

評価委員会が平成22年度の外形的進捗状況について確認した結果、下記の事項が注目される。

- 「神戸大学教育憲章」を踏まえ、学位授与の基本となる全学のディプロマ・ポリシーとして「神戸大学学位授与に関する方針」を策定している。
- 学生の質の向上並びに学生の修学指導を強化し、併せて学生の学習環境の充実を図るため、教務情報システムを更新し、シラバスの学外公開、授業出席管理及び小テスト成績管理機能、学生ポートフォリオなどの機能を新たに追加している。
- 分野横断的研究や新領域の研究を推進するため、神戸ポートアイランドに「神戸大学統合研究拠点」を平成23年度に開設することから、研究チームの選定や拠点の運営に必要な事項を審議する「統合研究拠点運営委員会」の設置等を行っている。
- 若手研究者に対して、海外の研究機関において研究を行う機会を与えるため、学長のリーダーシップにより創設した「神戸大学若手教員長期海外派遣制度」により、16名の海外派遣を行っている。
- 神戸大学ブリュッセルオフィスを設置したことにより、さらなる海外の大学及び研究機関との戦略的な学術連携の強化が図られ、オックスフォード大学との大学間学術交流協定をはじめ、欧州地域の10大学・研究機関と協定を締結している。
- 兵庫県との包括連携協定を締結し、大学の主要研究プロジェクト及び兵庫県の主要研究施設を活用した科学技術・産業振興分野並びに地域振興、人材育成などの取組を重点的に進めるとともに、国際交流や地域保健医療の推進など、幅広い分野で連携活動を発展させていくこととしている。
- 情報発信能力を高めるため、大学ホームページをリニューアルするとともに、国際的な情報発信強化のため、中国語、韓国語版ホームページを立ち上げている。
- 附属学校の再編に伴い、発達科学部附属から大学附属になったことを受け、各学部・研究科と附属学校との連携を推進するため、キャリアセミナー、農学部や理学部との連携授業等を実施している。

附属病院関係

(教育・研究面)

- 兵庫県との間で締結している地域医療循環型人材育成プログラム実施基本協定、地

域医療連携推進事業に関する協定に基づき、診療科等に特命教員を配置し、高度医療を指導する医師の育成と兵庫県内の地域医療機関に診療支援を行うなど、地域における総合臨床医等の育成を行っている。

- 教育研修プログラムの充実等により、多数の卒後臨床研修医を受け入れている。

(診療面)

- クリニカルパス委員会をほぼ毎月開催した結果、平成 22 年度は新規 7 件、改訂 34 件（平成 23 年 3 月 31 日現在 165 件）を行うなど、医療の質向上に努めている。

(運営面)

- 特命技術員（2 名）を採用するなど、病院経営の基盤となる医療情報システムの管理・運用体制の充実に努めている。